

第2976回 例会 令和7年9月11日(金)

出席委員会委員長	山下 民義
会員総数	19名
本日の出席者(免除者)	12名(3名)
本日の出席率	63.1%

会長あいさつ

会長 神谷 林 君

昨日はファイヤーサイドミーティングを「大勢」で開催しました。対象者は3年未満会員で藤井君、早川博也君、久米君、柴田君、池田宣明君、全員来ていただきました。早川比呂太君に【ロータリーとは】ということで話をしていただき、私も非常に勉強になりました。

10月に終わる万博ですが、行きたいパビリオンが抽選に外れたので行きません。この中では万博に行っていない人の方が少ないのではないのでしょうか。

今週のスマイル

親睦副委員長 渡邊 徹 君

- 神谷 林君 本日の齋藤様、新家様の卓話楽しみに聞かせてもらいます。
- 尾崎三枝子君 西尾市危機管理課の齋藤様 新家様、よろしくお祈りします。
- 鳥居萬里君 西尾市危機管理課の齋藤様 新家様、西尾一色 RC へようこそおこしいただきました。来月もあります。よろしくお祈りします。
- 山下民義君 本日の卓話、齋藤様 新家様、勉強させていただきます。
- 牧野美恵君 齋藤様 新家様本日は宜しくお祈りします。災害対策の話はテレビなどで聞けますが、西尾市という場所での話は聞く機会がないのでありがたいです。
- 藤井知明君 卓話よろしくお祈りします。
- 久米健史君 西尾市役所 齋藤様、新家様よろしくお祈り致します。
- 渡邊 徹君 昨日はファイヤーサイドミーティングでした。参加の皆さんお疲れ様でした。

8件 14,000円

本日の卓話

「災害対策 基本の基」

西尾市役所危機管理課 齋藤寛憲様 新家晶子様

●災害への備えの優先順位

災害への備えには優先順位があり、最も重要なのは「命を守ること」とされています。

災害から命を守る

災害から逃げる

被災生活に備える

1. 災害から命を守るための対策

- ・家屋の倒壊対策

倒壊しない家に住むことが最重要であり、能登半島地震の死因の多くが家屋倒壊による圧死や窒息死だったことが示されています。

建物は旧耐震基準（昭和56年5月以前）、新耐震基準（昭和56年6月以降）、2000年基準（平成12年6月以降）の3つに分類され、能登半島地震では旧耐震基準の家屋が圧倒的に倒壊し、2000年基準の家屋は半数以上が無被害でした。

西尾市は地盤が弱いため、旧耐震基準の家屋に住む方は耐震診断や耐震工事が推奨されます。西尾市では旧耐震基準の家屋に対し、無料の耐震診断制度と120万円までの耐震工事補助制度があります。

すぐに耐震工事ができない場合は、家屋が潰れることが多い1階ではなく2階で寝ることが推奨されています。

- ・家具・家電の固定と配置

地震で家具や家電が倒れたり飛んできたりして怪我をする可能性があるため、食器棚、冷蔵庫、テレビなどは固定が必要です。

寝ている間は無防備であるため、寝室にはできるだけ家具を置かないようにすることが推奨されます。

- ・地震保険への加入・見直し

家屋が損傷した場合の修繕や建て替えには多額の費用がかかります。能登半島地震の事例から、地震保険の重要性が強調されており、加入または見直しが強く推奨されています。

2. 災害から逃げるための対策

- ・ハザードマップの確認

津波と洪水のハザードマップで、自宅やよく行く場所のリスクを事前に確認することが重要です。

- ・津波からの避難

原則としてハザードマップ上で色が付いていない安全な高台まで避難します。

避難時は、道路損壊や渋滞を避けるため歩いて逃げる、橋の崩壊や津波の遡上リスクがあるため橋を渡らないことがポイントです。

怪我人、高齢者、乳幼児連れなど、遠くまで歩けない場合は、近くの一時的避難場や指定緊急避難所（ハザードマップ上の緑色のマーク）へ避難します。

南海トラフ地震における西尾市への津波到達時間は平均約3時間と想定されており、健康な方であればこの時間内に安全な場所まで歩いて避難することが可能です。

- ・洪水からの避難

洪水ハザードマップで自宅の浸水深を確認します。

1階建ての家屋やアパート・マンションの1階に住む方は、50cm以上の浸水が予想される場合、家を出て避難する必要があります。

2階建ての家屋に住む方は、3m以上の浸水が予想される場合は避難が必要ですが、3m以下の浸水であれば自宅の2階に避難が可能です。

「避難＝避難所に行く」ではないため、自宅が危険な

場合でも、安全な親戚・知人宅への避難や、事前に旅行に出ることも避難となります。避難所は冷暖房がなく、感染症や犯罪のリスクもあるため、最終手段と考え、他の避難先を事前に検討することが推奨されています。

3. 被災生活に備えるための対策

・非常持ち出し袋の準備

災害発生後、避難場所で1～2日程度過ごすためのバッグです。

内容の例：ヘルメット、軍手、ライト、ホイッスルなどの身を守る道具、傷パッド、消毒液などの応急手当の道具。

「1泊2日の素泊まり旅行に持っていくもの」を目安に、個人に必要なもの（ベビー用品、薬など）を準備します。

保管場所：玄関だけでなく、外出先での被災に備え車にも入れておくとう良いでしょう。

・備蓄品の準備

家屋が無事だった場合や在宅避難の場合に必要で、3日～7日分程度の食料品、飲み物、日用品を蓄える必要があります。これは、災害発生後72時間は人命救助が優先され、ライフライン復旧に時間がかかるためです。

備え方のポイント：ライフラインが止まったら何に困るか、何が代替になるかを考えて準備します。

・電気対策：懐中電灯、ランタン、ガーデンライト（昼間充電）、ラジオ（情報収集）、モバイルバッテリー、予備電池、乾電池式扇風機、カイロ、蓄電池、ポータブル電源。車のガソリンも停電対策として非常に有効で、半分になったら満タンにする習慣をつけることが推奨されます。

・ガス対策：カセットコンロ、カセットガスを用意し、温かい食事や食中毒対策に役立ちます。

断水対策：

・飲料水：1人1日3リットルを目安に、1週間分（最低3日分）を準備します（飲む水、料理、歯磨き用を含む）。

・携帯トイレ・簡易トイレ：断水時にはトイレが流れず、下水管の損壊による二次被害のリスクがあるため、1人1日5回分として1週間分用意します。携帯トイレは家の便座にセットして使用し、固形化剤で固めて燃えるゴミとして捨てられるため、感染症や臭いを防げます。

・衛生用品：ウェットティッシュ、消毒液（手洗い代わり）、体拭き用ウェットシート（入浴代わり）、洗顔シート、水がいらない歯磨き、おりものシート、尿漏れパッド（洗濯できない場合の下着代替）。

・その他：給水タンク（給水車利用時）、紙皿、紙コップ（食器洗浄代替）。

食料品・日用品の備え：

・ローリングストック法：特別な防災食ではなく、普段食べたり飲んだり使ったりしているものを、常

に多めにストックしておく方法です。

・個別用品：普段飲んでいる薬、ペット用品、介護用品、ベビー用品などは、災害時に手に入りにくくなるため、2週間～1ヶ月分を目安に特に多めにストックしておくべきです。

・災害クッキングレシピの活用

電気・ガス・水道、包丁、まな板が使えない状況でも、カセットコンロと耐熱性のポリ袋（アイラップなど）を使って調理できるレシピ集が紹介されており、湯煎でご飯やパスタ、蒸しパン、缶詰を使った簡単な料理などが作れます。

全体的な取り組み方と地域コミュニティの役割

これら全ての対策を一度に完璧にやろうとすると負担が大きいため、優先順位を念頭に置きながら、少しずつ着実に備えていくことが推奨されています（例：「今月は冷蔵庫を固定し、来月はテレビ固定、その次に携帯トイレを買う」といったペース）。

地域コミュニティとしては、個人の防災意識向上と準備のために、以下の活動が期待されます。

・防災講習会や啓発活動：持ち出し袋の具体的な内容やストック場所、個別ニーズに応じた備蓄品、災害クッキング、携帯トイレの使用方法などの情報提供。

・地域連携と情報共有：行政や消防署との連携、ロータリークラブなどの地域団体が率先して防災啓発を行うこと、YouTubeなどの多角的な情報発信。

・防災ツールの活用促進：防災アプリ（西尾市防災アプリなど）のダウンロード促進やハザードマップの読み方講習。



今週の献立

【愛】



---9月10日(水) ファイヤーサイドミーティング---

